



# 令和7年度 東京都立花畑学園 学校経営報告

## I 今年度の取組目標【学校経営目標・行動計画】の自己評価 (高度に達成：◎ 達成：○ ほぼ達成：△ 未達成：×)

### 1 学び・学びあいの教育活動の推進

- (1) 体験活動等や成功体験を重視し、主体的・対話的で深い学びを踏まえた指導計画を確立  
(○) →体験的な授業や行事を実施、3観点の学習評価に向けた指導計画の改善
- (2) 言語活動(図書室の活用)・芸術文化・障害者スポーツ(e-スポーツ)の充実(レガシーの継承)  
(◎) →図書室の整備、地域と連携したパラスポーツ体験会の実施、体験的な芸術鑑賞会の実施
- (3) デジタル及びICT機器を活用した実践的な学習指導の推進  
(△) →児童・生徒の可能性を広げるGIGA 端末及び一人一台端末の活用促進
- (4) 「基礎・基本を重視した行事」と「新しい発想の行事」の充実及び「花畑スタイル：行事編」の確立  
(◎) →校外行事と宿泊行事の安全かつ充実した実施および地域と連携した学園祭やスポーツフェスティバルの実施
- (5) 自立活動やキャリア教育の充実を図るための環境整備と実践的な取組の推進  
(○) →外部専門員を活用した自立活動の充実、視線入力装置を活用した指導

### 2 教育全般の専門性の向上(「OJT」、「Off-JT」、「自己啓発」の三つの手段の充実)

- (1) 学校スタッフの人権感覚の向上と体罰・不適切指導を起こさせない風土づくりの醸成  
(×) →サービス事故発生、学期ごとの服務研修及び集中研修の実施と毎月のアンケートの実施
- (2) 健康・安全・防災に関する知識・技能・専門性の向上  
(◎) →外部講師を招聘した防災研修会の実施(防災士による避難所受入れ訓練の実施)
- (3) 外部有識者や肢知両教育部門の協同・専門性を相乗させた研修活動の充実  
(◎) →外部専門員を活用した授業研究の実施、授業改善シートを活用した授業改善
- (4) 教職員の研修履歴や職層等に応じた計画的な個々の研修の充実(花畑ポートフォリオ)  
(○) →花畑ポートフォリオの専門性向上シートを活用した研修の充実
- (5) 外部専門員や近隣校と連携した授業改善の推進(授業改善推進プラン：準ずる課程)  
(○) →近隣校と連携した相互の授業見学、研究会への参加

### 3 児童・生徒の生活全般のサポート・ケア及び個々に応じた進路の充実

- (1) 様々な事業所等を活用し切れ目のない生活の支援及び相談機能の推進と校内支援の充実  
(◎) →コーディネーター、進路主任を中心とした取組
- (2) 高等部卒業後を意識できる進路指導の確立(知的部門)  
(◎) →上級学校訪問や地域と連携した清掃活動、挨拶運動等の進路活動の充実
- (3) 個々の児童・生徒の将来像を描いた、積極的、計画的な福祉就労及び一般就労の推進(肢体部門)  
(◎) →一般就労に向けた授業改善、企業就労1名

### 4 特色のある教育活動の推進(地域の拠点：地域と学ぶ・育つ・守る)

- (1) 社会資源・外部人材を活用した学習や行事及び交流学習等の充実及び地域への発信  
(◎) →外部人材を招聘した交流学習の実施、足立区、近隣校と連携したパラスポーツ体験会の実施
- (2) 近隣の学校や特別支援学校等及び多職種と連携した多面的な支援・相談体制の確立  
(◎) →地域の小中高等学校への研修、相談、授業支援
- (3) 特別支援教育に携わる学生等の人材育成や近隣校や関係諸機関等への理解推進

- (◎) →近隣の大学と連携した、看護学実習（85名）の実施、研修会の実施（583名）
- (4) 様々自然災害等を想定し、地域や関係諸機関等と連携・実践的な防災体制及び施設整備の強化
- (○) →地域と連携した防災訓練の実施、近隣都立施設との連携訓練の実施

## 5 安心・安全な組織体制及び環境整備の確立

- (1) 児童・生徒の健康を守るための学校保健活動等を推進（感染症予防対策含む）
  - (○) →保護者、主治医、関係機関等と連携した個々の障害に応じた健康づくりを推進
- (2) 防犯及び自然災害等緊急時の対応・危機管理体制及び対応力の強化（再掲）
  - (○) →電源確保や防災テント等の施設面、環境面の強化、災害伝言ダイヤル訓練の実施
- (3) インシデント・アクシデントの原因を分析し、分析結果に基づく再発防止策の徹底
  - (△) →事故1件発生、事故の予見・ヒューマンエラーの防止を位置付けた学級経営及び学習指導
- (4) 教育効果・安全を意識した教室や特別教室の整理・整頓の強化
  - (◎) →教室環境整備マニュアルを活用した教室環境整備の推進
- (5) 施設設備等の維持・管理や健康と安全性の確保に係わる環境整備の点検
  - (○) →安全指導日による施設及び教材教具等の点検の徹底
- (6) 持続可能な施設設備等の維持管理の推進（削減・節減の徹底：光熱水量・ごみ・CO2等）
  - (○) →設備等のタイマー設定及び終業後の速やかな消費電力等光熱費の電源 off

## 6 組織的・機能的・主体的な学校運営の推進及び

- (1) 服務規律、個人情報管理を徹底（クリーンデスク、個人情報の収受の徹底等）
  - (○) →クリーンディスクの設定、個人情報管理用ファイルの活用
- (2) 「情報」を迅速に共有し、「共通理解」のもと組織として対応を強化
  - (○) →臨時の企画調整会議、職員連絡会を実施し、組織的に情報共有を実施
- (3) 経営企画室と教員が連携し、執行率を意識した適正な学校予算の執行の実施
  - (○) →経営企画室と教員が連携した効率化を図った予算編成・予算執行
- (4) 主幹教諭と主任教諭が核になる学校運営の強化（主幹会議の充実）
  - (○) →主幹会を中心とした組織的な運営

## 7 喫緊の教育課題解決のための取組の推進(すべてが重点項目)

- (1) 「学校における働き方改革推進プラン」（H30年2月）に基づく働き方改革の充実
  - (○) →長期休業中のテレワークの実施、時差勤務日の実施
- (2) 各種ハラスメントの防止・根絶、職員の健康増進及びメンタルヘルスの向上
  - (△) →各種ハラスメントへの即時対応・管理職とのコミュニケーションの充実と継続対応
- (3) デジタル機器やシステムを活用した教育の推進と校務支援の試行
  - (○) →ICT支援員、ICTリーダーとの連携による校務支援システムの充実
- (4) 避難所として実質的な機能ができる防災計画・整備等の構築
  - (○) →足立区と連携した防災計画の策定、防災訓練の実施
- (5) 校務全般のルールや分掌等のノウハウを蓄積し確実な引継の徹底（花畑スタイル：学校運営編）
  - (△) →校務全般のルールの確認、花畑スタイル「学校運営編」の原案完成半ば
- (6) 児童・生徒の精神的自立を促す医療的ケアの推進（保護者の付添短縮化等）
  - (◎) →医療的ケア安全委員会を活用した全校的な医療的ケアの推進

## II 学校評価アンケートに基づく評価

今年度の本校の教育活動への取組について、学校評価アンケートを実施した。各設問における肯定的評価の割合は、下記のとおりであった。肯定的な回答が大多数を占めており、経営目標が達成できていると考えている。少数意見についても、学校評価の最終まとめでは改善すべき事項として受け止め、対応を示した。

肯定的評価の割合 (令和6年度の割合)		保護者全 体	教職員全 体	放課後等 デイサービ ス 事業所	地域住民	学校運営 連絡協議 会 委員
Q 1	学校生活について	96.8% 96.9%	98.8% 99.6%	92.3% 100.0%	100.0% 100.0%	100.0% 100.0%
Q 2	人権配慮について	95.5% 98.6%	96.5% 97.8%	- -	- -	92.9% 100.0%
Q 3	教育活動について	97.0% 97.4%	93.8% 98.2%	84.6% 100.0%	100.0% 100.0%	- -
Q 4	授業内容・手立てについて	97.3% 98.6%	98.4% 98.2%	- -	90.0% 100.0%	100.0% 100.0%
Q 5	専門性の協同・相乗について	- -	94.9% 98.2%	- -	- -	100.0% 100.0%
Q 6	学校との連携について	92.0% 97.4%	97.7% 98.7%	76.9% 90.9%	- -	- -
Q 7	生活指導について	97.7% 98.1%	98.4% 98.7%	61.5% 54.5%	100.0% 90.0%	100.0% 100.0%
Q 8	進級・進学について	90.0% 91.9%	94.2% 97.3%	- -	- -	- -
Q 9	関係機関との連携について	88.6% 93.6%	95.3% 98.2%	76.9% 72.7%	100.0% 100.0%	100.0% 100.0%

Q 10	ライフ・ワーク・バランスについて	89.8% 93.6%	81.3% 84.1%	- -	- -	100.0% 100.0%
Q 11	教職員間の連携	- -	87.5% 90.7%	- -	- -	- -

### Ⅲ 次年度に向けて

令和7年度は、各種感染症対策を講じ、安全を担保して、校外行事の定着や地域が集う・つながる取り組みとして地域と連携したスポーツフェスティバル、学園祭の実施など一歩一歩着実に教育活動を進めてきた。また、特別支援教育の推進、理解啓発を進める『学びの拠点（未来への人材育成）』として、地域の小学校・中学校・高等学校と連携した授業改善や研修会、足立区、荒川区の初任者研修会の受け入れや特別支援学級の教員の研修会の実施、今後特別支援教育に携わる学生（医学生、看護学生、介護等体験生等）の人材育成に積極的に携わり、583名の参加があった。

学校行事等については、すべての学年、学習グループで遠足や社会見学などの校外学習、移動教室や修学旅行などの宿泊行事を実施することができた。安全で充実した実施に向けて、企画、運営、実施の流れを確認しながら取り組み、全学年の系統性も考慮して計画的に実施した。次年度以降も見直しを行いながら実施していく。学園祭やスポーツフェスティバルについては、熱中症対策を行いながら、ユニバーサルリレーや地域・進路ブースの設置など地域と連携して実施した次年度もさらに充実したものとなるよう計画、実践していく。

教職員の指導・支援力の向上については、様々な研修を通して学びを深め、実践につなげているところではあるが、まだ道半ばである。引き続き、ポートフォリオの活用や「花畑スタイル」の見直しも含めて、学校全体としての底上げを図っていく。

校内の研修としては、全教員に研修ポートフォリオを配布し、教員個々のニーズに合わせた研修を計画的に実施した。授業ガイドラインに基づく、授業力向上シートを作成し、自己申告の面接で報告するようにした。また、外部専門員を活用して、年次研究授業の助言を行うなど校内での人材育成に努めた。次年度も「東京都教員研修計画」に準じながら学び続ける教員の育成に努める。

P T Aや放課後等デイサービス事業所、足立区や荒川区といった関係行政機関との連携を更に密にすることができた。足立区との防災協定の締結や都立北療育医療センター城北分園から防災時の受け入れについて連携を図ることを取り決めるなど、本校の施設を生かして地域の防災の拠点としての役割を明確にしていくことができた。東日本大震災から15年を経る現在、防災対策を再考し、関係機関と連携を図りながら防災の拠点としてさらに充実できるよう、計画的に進めていく。

I C T機器の活用として、外部専門家を招聘し、視点入力装置やスイッチ機材の工夫などデジタルを活用した教育の充実を図った。また、デジタルカーペットやジェスチャーインターフェース、デジリハ等の最新の機器を導入し、機械の拡充を図った。児童・生徒の可能性を最大限引き出せるよう取り組み、個別最適化された学びや子供同士の主体的・対話的な学びなどを促進していく。

働き方改革としては、長期休業中のテレワークの実施と月に1回の時5月、7月、10月～3月まで月1回、年間8回の時差勤務日を実施した。学校評価においては、保護者の理解は進んだものの、教職員の実情が追い付いていない現状もある。次年度も授業時数標準化を見据えつつ、課題を明らかにして、働き方改革に向けて取り組んでいく。

令和8年度も本校が多様な学びの場、安心・安全の場、集う場となり、地域に根付いていくための取組をより具体的に計画・実践していく。